

# 亥鼻祭実行委員会

吉村 健佑, 池内 博紀

## 『10年ぶり「亥鼻祭」復活の経緯』

亥鼻キャンパスには、1993年から10年間、大学祭がありませんでした。私はこの亥鼻祭の復活を目指し、2003年度亥鼻祭実行委員長として活動しました。もう6年も前のことになりますが、その目的と経緯を述べさせていただきます。

### 1. なぜ「大学祭」か？

私は東京の大学を中退して、千葉大「再入学組」でした。2000年の入学当時、大学には活気がありませんでした。確かにサークル・部活動は驚くほど盛んです。しかし、学生の授業に対する期待感は薄く、学生が将来の展望を語り合うこともない。学生は大学への不平不満ばかりを言いあっていました。折しも国立大学の独立行政法人化が決定し、「個性と魅力ある新しい大学作り」が叫ばれていた頃です。

このままでは千葉大学がつまらない三流大学になる、と思いました。確かに千葉大学の入試の難度は高い。しかし、大学の本当の価値とは、魅力ある「場」です。そこの学生・教官がいかに目を輝かせて学び、教えているか。自分の理想に向けて燃えているか、にその真価があると考えました。魅力ある場を求めて、面白い人材、優秀な人材が集まる。そんな大学に千葉大がなれたらいいのではないか。入学試験の難化はその結果であり、前提ではありません。

では、学生から行える「魅力ある千葉大作り」とは何だろうか？そんなことを考えている頃、学生自治会長もしている先輩と八ヶ岳に登山に行くことになりました。山小屋で車座になり語り合っていると、「じゃあ、大学祭でもやるか」との話になりました。実は2000年に組織された医学部学生自治会の事業計画に「亥鼻祭の復活」という項目があるそうなのです。その昔、亥鼻には文化祭としての「亥鼻祭」と「体育祭」が存在し、地域を巻き込んでのイベントになっていたことも始めて知りました。しかも亥鼻祭の歴史は古く、千葉医科大学の時代より行われていた伝統行事でもあったのです。そして、西千葉キャンパスには「千葉大祭」、松戸キャンパスには「戸定祭」があるのに、亥鼻だけお祭りがな

いのです。

これはいい案だと思いました。一年中、「大学のために何かやろう!!」では学生達も疲れてしまう。学生には部活もバイトも勉強も飲み会もあります。そこでせめて1年に1度「亥鼻祭」の間は、千葉大について、将来について、医学と医療について、学生が主体的に語ろう。そんな思いで、亥鼻祭の復活を掲げました。当時私が医学部3年生、2002年11月のことです。

### 2. 意外に高い「ポテンシャル」

亥鼻キャンパスには医学部の他に看護学部もあり、その学生を合わせても約920名の小さな規模です。早速A4で6ページほどの「亥鼻祭企画書」なるものを作成し、知り合いを頼りに掲示・配布し、第1回亥鼻祭実行委員会を開催しました。12人ほどの参加でした。そのメンバーを中心に、亥鼻祭実行委員会本部を作り、さらに、「企画」「広報」「施設」「財務」を「局」として設立し、その局長も本部に加え、中心となるメンバーは医学部・看護学部の学生約10人でした。

10人、やる気のある人間が集まれば、とたんに仕事は捗りました。学部長・事務長・同窓会長などへの連絡、委員の募集、とんとん拍子に進みました。亥鼻には優秀で熱い、面白い学生達が沢山いたので

す。そして、卒業生からの反応が秀逸でした。賛同してくれる方より寄付を募り、0円だった予算がすぐに100万円を超え、その後もどんどん集まりました。実行委員は2003年4月には新入生を迎え、100人を超えました。最高に忙しく、最高に楽しい日々でした。祭のテーマはストレートに“今の「千葉大」でいいんですか？”としました。学内の一部からは「大学に対し挑戦的だ」と批判もされましたが、議論を生み、話題性を確保する意味でいい題が付きしました。

### 3. 地域の支援

10年前に消滅した亥鼻祭を学生は誰一人知りませんが、地域の方々は当時の亥鼻祭を知っていました。広報活動のために地域の商店や町内会長さ

んに挨拶回りをしていると、たびたび励ましの言葉を頂きました。学生と地域、とても距離が開いていたのです。「病院は病気になったら行くところ。だから同じ敷地の大学もあまり行きたくない」「死体があるのでしょ？不気味だよ」という方もいました。千葉大学でありながら、いかに「千葉」という地域と離れていたかを実感し、問題意識がわきます。学生としては身軽に、気軽に地域に入っていきます。学生自ら行動することの可能性を感じました。スーツを着て、名刺とパンフレットを手に、地域のさまざまな医院・商店・医師会などを仲間と一緒に駆け回りました。地域との関わりを取り戻したことも亥鼻祭が契機となったと思います。

#### 4. 花開いた祭の日

構想から1年後、2003年11月2日3日に、「亥鼻祭」は開催されました。同日に開催されている西千葉「千葉大祭」の会場とは無料シャトルバスを往復させました。作家の柳田邦男氏、本学卒業生である緩和ケア医の山崎章郎先生等をお招きしてのシンポジウムでは医学部記念講堂が聴衆で一杯になりました。広報局の働きかけで、大手新聞5社の千葉欄に亥鼻祭の記事が掲載されました。千葉大生はもちろん、医学部志望の受験生、お年寄りから、親子連れ、職員の家族、さまざまな客層が来場してくれました。各部活が売る模擬店では売り切れ続出です。結局、2日間で5000人を超える方がいらっしやいました。実行委員は学部・学年・部活を超えて協力し、ともに汗を流しました。みんな「一から作る」亥鼻祭を楽しみました。委員長である私はまさに感無量で、最終日に思わず涙しました。この経験から本当に多くを学びました。人の上に立つ難しさ、楽しさ。意思決定、情報共有の方法。後輩を育てる難しさ、喜び。会議が進むこと、飲み会で生まれること。大学時代に得た私の財産です。

目標を達成するためには、多くの仲間、協力者を得る必要があります。結局は「人」でした。一緒に汗を流した仲間とは今でも言葉にできない想い・満足感を共有できていると思います。千葉大に来て、本当に良かったと思っています。

#### 5. 亥鼻祭卒業生として

その後の亥鼻祭の発展については後輩の記事に譲ります。ただ、ここで伝えたいことは亥鼻祭が復活したのは「千葉大医学部の伝統」あつての事だということです。多くの卒業生からの寄付という形で届けられたエールがどれほど学生を励ましたことか。

「若い連中がやりたいなら大いにやりなさい。我々は応援するよ、お祭りはいいからね！」と当時の渡辺武同窓会長から頂いた応援の言葉は忘れられません。今後は卒業生の一人として、志ある学生の活動を応援してゆこうと思っています。同窓会員の皆様も亥鼻祭への支援を今後ともよろしくお願いします。

(よしむら けんすけ)

#### 『7年目を迎えて』

2003年に亥鼻祭が復活して8年が経ちました。今、千葉大学医学部看護学部が地域に発信する場としての亥鼻祭は大きな岐路を迎えています。現役学生を代表して亥鼻祭の現状と未来について述べさせていただきます。

##### 1. 「大学祭」が存在すること

2006年の春、私は一年間の浪人生活を経て千葉大学に入学しました。そして多くの他の同級生と同じように部活に入り、また部活の先輩に誘われるままに亥鼻祭に関わることになりました。それから5年、亥鼻祭は非常に大きな団体になりました。新たに入学してくる後輩の多くが亥鼻祭に興味を持ち、参加してくれることは元委員長として非常に嬉しいことです。

しかし、ここ数年で「大学祭」への関わり方は大きく変化しました。私を含め、現在の学生は亥鼻祭の初年度を知りません。「大学に大学祭があるのは当たり前」ということ、これは亥鼻祭が千葉大学にまた根付いたことを意味します。しかし、同時に、新たに何かを生み出そうとするエネルギーが不足していることをも意味しています。亥鼻祭が存在することに慣れてしまい、既存の企画を例年通り実行することに終始し、「新たな自分を発信する場」としての亥鼻祭を模索することがなくなってしまったように思います。

千葉大学にしっかりと根付きながらも毎年進化を続ける大学祭になることが、今後の亥鼻祭の課題になると思います。

##### 2. 日本一価値のある大学祭

昨年、寄付を頂いた挨拶として同窓会総会にお伺いさせていただきました。その際、「亥鼻祭というのは昔、千葉市の一大イベントだった。」というお言葉を頂きました。私たちにとってそれは非常に心強いお言葉であり、また「地域に根ざした大学祭を

## 第5章 交友の広がり

創ろう」という方向性が正しいと確信させるものでした。年々大きくなってきたとはいえ、亥鼻祭は来場者3000人の小さな大学祭です。数では都内の大学にはまず及びません。それではこれから亥鼻祭は何を目指していけばよいか？そんな話し合いの中から生まれたのが「日本一価値のある大学祭を目指そう」という言葉です。幸い、亥鼻祭にはその土壌があります。医療系キャンパスという特殊な環境、協力的な地域の方々、そして学生自身の高いポテンシャル……これらを最大限活用することによって、亥鼻祭は他に類を見ない、学生にとっても来場者にとっても非常に価値の高い大学祭になると考えています。そして、それが達成されたときに亥鼻祭は千葉大学の新たな伝統となると思います。

### 3. 最後に

2010年11月6日、7日、第8回亥鼻祭が行われました。

今回も天候に恵まれ、約3,000人の方にご来場いただきました。

これから先、亥鼻祭は時代に沿った変化をしていくことと思います。その中で、先輩方から受けついで「学生の持つパワー」を後輩に引きつぐことが、自分達の役目だと思っています。

最後になりましたが、同窓会の先生方には毎年多くのご声援、応援を頂きまして誠にありがとうございます。委員長就任中は特に多くの方に支えて頂いているのを切に感じました。今後とも亥鼻祭へのご支援のほどをよろしくお願い致します。

(いけうち ひろき)